

2026 年度(令和 8年度)学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番78	福山市立中条小学校
最終更新日		2026年(令和8年) 4月15日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <p>○算数に力を入れ、教育的愛情をもって学校全体で取り組むことで正答率や学習意欲も向上している。</p> <p>○放課後チャレンジ教室等地域とともに子供たちと向き合える取り組みをしている。</p> <p>●保護者、地域と課題を共有し、協力しながら学力の向上に努めてほしい。</p>

<p>児童生徒の現状</p> <p>○自分で目標を立て、友達とまなび合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。</p> <p>○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。</p> <p>●家庭学習時間が少ない。スマホやゲームの利用時間が長い。</p>
--

育成する 資質・能力	学びに向かう力 コミュニケーション力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	共に学び、共に支え、未来を切り開き、地域・学校に貢献する生徒
中学校区として 統一した取組等	○児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○校種・教科・領域をこえた合同研修を行う。

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自分を磨き ともに学び 支え合う児童の育成</p>
--

<p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <p>○児童アンケートで自分のことが好きと答えた児童は80%であった。自分の課題を明確にし、次への目標を立てて取り組める児童が増えた。</p> <p>●自信をもって自分を好きと好きと言えない児童もあり、成長した喜びを味わい、自信をもって生活できる場を設定し、自己実現に向かおうとする環境を充実させる。</p> <p><授業></p> <p>○児童アンケートで学習内容がよくわかると回答した児童は90%に表れるように授業改善を通じて理解度の向上と伴って意欲の向上が見られる。</p> <p>○学力テスト国語の5年生において、正答率40%以下の児童の割合が43%から7%にまで減少し全国平均を上回る結果となった。</p> <p>●個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を日々の授業改善を通して校内全体で目指していく。</p>

育成する 資質・能力	A コミュニケーション力 B 人としての思いやり C 課題解決力	
めざす 子ども像	A 人の話をしっかり聴くことができ、自分の考えを順序に気をつけて伝えることができる。 B 自分や友だちのがんばりやよいところを見つけることができる。 C 思いや願いの実現に向けて、自分の課題をもち、いろいろな方法を使って考えることができる。	
	A 自分の考えをもち、根拠をもとにわかりやすく伝えることができる。 B 相手の立場になって考え、お互いのよさを認め合うことができる。 C 見方や考え方を広げながら課題を設定し、見通しをもって課題を解決することができる。	
研究	テーマ 内容的等	主体的に学ぶ子どもの育成 ～学びを充実させる授業の3Kを通して～ ○授業モデル「中条スタイル」の確立 ○学びを調整するリフレクションの向上
	めざす授業の姿	◇学びを充実させる授業の3K(教材研究・関係性・環境づくり)を踏まえ、個に応じたUDの視点を持ち、自己選択自己決定しながら学びに向かえる個別最適な学びとなる授業 ◇リフレクションを通して学びを調整できる授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
4	○「子ども主 体のび」～特 別支援教育を 生かした個別 最適な学びの 推進～	★ I	見 直 し	主体的に学ぶ児 童を育成するた めに、学びを充 実させる授業の 3Kを踏まえた 授業づくりを 行う。 ・教材研究 ・関係性 ・環境づくり	① 育成したい資 質・能力を基に 教科横断的な視 点で相互の関 連付けや手立 てを考える。 ・一斉研修日等 を活用した教 材研究、授業 研究	○学カテスト等 の結果を分析、 検証していく 場の設定 ・算数科の学期 末テストにお いて、得点率 40%未満の 児童が10%未 満 ・標準学カテ スト(12月)に おいて、得点 率40%未満 の児童が10% 未満									
					② ねらいに応じ て自己選択自己 決定しながら学 びに向かえるよ う個別最適な学 びとなる授業づ くりを追及する。 ・リフレクシ ョンを通じた 学びの調整	○課題解決力を 問う児童アン ケートにおい て、肯定的評 価を80%以上 にする。 ※質問内容は 学年に応じて 文言を設定す る。									
					③ 児童の運動意 欲・体力の向上 ・委員会主導 の縦割り活動 などを通して、 体を動かすこ との楽しさを 実感させる。 ・児童の運動 環境(運動器 具等)の整備 や実技研修 及び情報共有 を充実させる。	○児童アンケート で「週に1回以 上体を動かして いる」と答 える児童を90 %以上にす る。									

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
4	○望ましい集団づくりの実現 ～自分を磨き、ともに学び支え合う児童の育成～	2	継続	児童同士、地域や専門家等との関りを通して学び合い、自己及び集団のよりよいあり方について考える児童の育ちを支援する。 ・自治活動	①リフレクションの更なる充実 ・リフレクションを活用して、自分の成長や良さを感じる事ができる場を設定する。 ・他者からの肯定的評価を伝え合う場を設定し、自他ともに認め合える学級・学校づくりを進める。	○児童アンケートで「授業や行事を通して自身の成長を実感した」と答えた児童を90%以上にする。									
1	○地域に開かれた信頼される学校づくり	3	新規	地域の人・物・事とふれあい、地域について知る。	①各学年地域学習を年に1度以上仕組む。 ②学校教育活動に対する保護者や地域の方の思いや意見を把握する。	○地域学習の年間計画をもとに、地域の良さに気づいたり、地域のために自分ができることを考えたりするきっかけとなる地域学習を1年に1回以上行う。 ○児童アンケートで、「地域の良さを2つ以上言える」児童を90%以上にする。 ○保護者アンケート「満足度」90%以上にする。									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。